

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第1区分

【発行日】平成25年7月11日(2013.7.11)

【公開番号】特開2010-236554(P2010-236554A)

【公開日】平成22年10月21日(2010.10.21)

【年通号数】公開・登録公報2010-042

【出願番号】特願2010-106241(P2010-106241)

【国際特許分類】

F 01 N	3/08	(2006.01)
F 01 N	3/24	(2006.01)
F 01 N	3/28	(2006.01)
F 01 N	3/20	(2006.01)
B 01 J	23/58	(2006.01)
B 01 D	53/94	(2006.01)
B 01 J	23/22	(2006.01)

【F I】

F 01 N	3/08	Z A B G
F 01 N	3/08	A
F 01 N	3/24	C
F 01 N	3/28	3 0 1 C
F 01 N	3/24	E
F 01 N	3/20	B
B 01 J	23/58	A
B 01 D	53/36	1 0 1 A
B 01 J	23/22	A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年5月27日(2013.5.27)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

リーンバーン内燃機関用の排気機構であって、

酸化窒素(NO_x)吸収材と、

窒素系還元剤またはその前駆物質によるNO_xの選択的触媒還元(SCR)を触媒作用させる第一SCR触媒と、

前記第一SCR触媒の上流に、前記窒素系還元剤またはその前駆物質を排気ガス中に導入するための第一手段と、

前記第一SCR触媒の上流に、前記窒素系還元剤またはその前駆物質を前記排気ガス中に導入する第一手段に供給するための、前記窒素系還元剤またはその前駆物質の供給源と、及び

前記窒素系還元剤またはその前駆物質を前記排気ガス中に導入することを制御する手段とを備えてなり、

前記第一SCR触媒が、第二のモノリス基材に支持された前記NO_x吸収材の上流に、第一のモノリス基材に配置されてなり、

前記制御手段が、前記第一SCR触媒がNO_xをN₂に還元するのに活性である場合

にのみ、前記第一導入手段により、前記窒素系還元剤またはその前駆物質を前記排気ガスに導入し、酸化窒素（NO_x）吸収材の下流で前記窒素系還元剤またはその前駆物質が検出されると、前記第一導入手段により前記窒素系還元剤またはその前駆物質の前記排気ガス中への導入量を減少させるように設計されてなり、

それによって、大気中への前記窒素系還元剤またはその前駆物質の排出を阻止する、リーンバーン内燃機関用の排気機構。

【請求項 2】

排気機構を備えたりーンバーン内燃機関から排出される排気ガス中のNO_xを処理する方法であつて、

前記排気機構が、

酸化窒素（NO_x）吸収材と、

窒素系還元剤またはその前駆物質によるNO_xの選択的触媒還元（SCR）を触媒作用させる第一SCR触媒とを備えてなり、

前記第一SCR触媒が、第二のモノリス基材に支持された前記NO_x吸収材の上流に、第一のモノリス基材に配置されてなり、

前記方法が、

前記第一SCR触媒がNO_xをN₂に還元するのに不活性である時、NO_x吸収材を、NO_x吸収材に貯蔵された総NO_xを完全に還元するには不十分な前記窒素系還元剤またはその前駆物質と接触させ、及び

前記第一SCR触媒がNO_xをN₂に還元するのに活性である時、前記第一SCR触媒を、十分な窒素系還元剤またはその前駆物質と接触させ、前記排気ガス中のNO_xをN₂に還元し、酸化窒素（NO_x）吸収材の下流で前記窒素系還元剤が検出されると、前記窒素系還元剤またはその前駆物質の第一SCR触媒との接触量を減少させ、

それによって、大気中への前記窒素系還元剤またはその前駆物質の排出を阻止することを含んでなる、処理方法。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0067

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0067】

再生工程は、SCR触媒がその、NH₃とNO_xの反応に触媒作用する低温活性温度より下または上にある時に起こることができる。SCR触媒の低温活性温度より下にある時、NH₃またはNH₃前駆物質は、実質的にNH_xのすべてが蓄積されたNO_xによって消費されるように計量供給される。SCR触媒が活性化されると、NH₃またはNH₃前駆物質は、NO_xに対して化学量論的量を超えるNH₃がSCR触媒上で存在し、NO_xトラップの再生に十分なNH₃がSCR触媒をすり抜けるように計量供給される。SCR触媒を通過するNH₃のすり抜けが停止すると、再生工程は終了するので、吸収工程が、残留NO_xの吸収を再生工程で得た最終レベルから再び開始する。あるいは、意図的なNH₃のすり抜けを行わずに、SCR触媒からすり抜けたNH₃により、NO_xトラップを「受動的に」再生する。再生工程を長期に、例えばニトロシル塩の分解が完了するまで続行すると、吸収装置28を離れるガスのNH₃含有量は、再生開始における水準に上昇し、従来の連続式SCRにおけるようにクリーン・アップ触媒を装備しない限り、NH₃を大気中に放出することになる。